



東地中海地域ニュース

ヨルダン：観光分野での GDP 貢献度 (7月6、16日付「ヨルダン・タイムズ」紙)

経済・メディア・コンサルタントの Fahad Fanek 氏による寄稿文。

1. ヨルダンの観光分野での GDP 貢献度は、適正に記録される必要があり、観光省や経済評論家が主張するような、GDP の 10%台には達していない。かかる誤った主張の背景には、GDP とは付加価値の合計で、収入の合計ではないにも係らず、10 億 JD (約 1,700 億円) を超える観光収入が、そのまま GDP に貢献していると考えられているためである。
2. 中央銀行によると、2006 年の観光収入は 11 億 6,400 万 JD (約 2,000 億円) であり、GDP の 11.5%を占めるが、観光客により消費される殆んど財・サービスは、輸入によるものであり、除外されるべきであるので、これらの数字は本来の観光分野の GDP 貢献度を示していない。又、付加価値の合計と、輸入財・サービスを含んだ総収入とは異なるものである。ヨルダンの観光収入のほぼ三分の一が付加価値であり、残りが中間投入と考えられている。
3. 統計局によると、観光分野の中心であるホテル・レストラン分野の付加価値の合計は、年間 1 億 5,000 万 JD (約 260 億円) にも満たない。例え、ホテル・レストラン分野の付加価値合計及びそれと同程度とした場合の他の類似分野の付加価値合計を観光分野の付加価値合計として仮定したとしても、多くても 3 億 JD (約 520 億円) であり、GDP の 3% 程度でしかない。
4. 各産業界のリーダー達は、自らの分野の GDP 貢献度を誇張しがちであり、間接的に他産業分野にもたらした利益についても自らの分野の利益に含めるときがあるが、これらは世論を誤解させることになる。各産業は、相互に影響し、経済成長に重要であるが、だからといって、他産業の価値を考慮せずに、一つの産業の価値を誇張してよいことにはならない。
5. 観光分野は、様々なレベルでの雇用創出や外貨獲得に貢献し、大きな発展の潜在性を有しているものの、我々は未だその成果を十分享受してはいない。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799